

## 施策 5 教育の質を高める環境の充実

<b>指標 1</b>	<b>【項目】</b> 研修目標達成度（5段階評価）				<b>【説明】</b> 経験者研修及び専門研修ごとの研修目標達成度の平均（5段階評価）			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
	—	4.1	—	4.4	4.5	4.4	—	4.5
担当課評価								
<p>【担当課】 学校管理課 教育センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗は順調です。</li> <li>・「埼玉県 校長及び教員としての資質向上に関する指標」を踏まえ、キャリアステージに応じた資質能力を育成するよう計画に沿って研修を実施しました。</li> <li>・今後は、教職員の主体的な学びを支援するため、教職員のニーズに応じた研修内容について検討します。また、働き方改革等の観点から、研修効果を担保した上で、研修のオンライン化（同時双方向型・オンデマンド型）をさらに進めます。</li> </ul>								
<b>指標 2</b>	<b>【項目】</b> 勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合				<b>【説明】</b> 勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
	%	77.7	77.2	78.2	78.0	73.4	—	30.0
担当課評価								
<p>【担当課】 学校管理課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗はあまり順調ではありません。</li> <li>・時間外在校等時間数の削減に向け、各学校では、行事等の精選、日課表の工夫等の取組を行っています。</li> <li>・今後は、本市の「学校における働き方改革基本方針」に基づき、保護者や地域の方の理解を得ながら、具体的な改善策を講じていきます。</li> </ul>								
<b>指標 3</b>	<b>【項目】</b> 市立川越高等学校の生徒、保護者の満足度				<b>【説明】</b> 生徒、保護者への学校評価アンケートにおける「入学して（させて）よかった」と回答した割合			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
	%	85.7	94.9	89.0	89.7	90.8	—	100
担当課評価								
<p>【担当課】 市立川越高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗は順調です。</li> <li>・年度により実績値に変動はありますが、生徒や保護者の意見を聞き、良好な学校運営に努めたことにより実績値は高い状況です。</li> <li>・引き続き、目標値を目指して、生徒や保護者の意見を聞き、良好な学校運営に努め、市立川越高等学校の満足度向上を図ります。</li> </ul>								
<b>指標 4</b>	<b>【項目】</b> 市立特別支援学校のセンター的機能を活用した学校の割合				<b>【説明】</b> 各市立小・中・高等学校（小32校、中22校、高1校）が市立特別支援学校のセンター的機能を活用した割合			
	単位	現在値 (R1)	実績値					目標値 (R7)
	%	—	7.2	52.7	49.1	43.6	—	100
担当課評価								
<p>【担当課】 教育センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進捗はあまり順調ではありません。</li> <li>・センター的機能を活用している学校が限られています。</li> <li>・市立特別支援学校からの積極的な情報発信とともに、センター的機能を活用することにより得られる効果等を、各学校に周知していきます。</li> </ul>								

施策 5 教育の質を高める環境の充実		総合評価 B
総合評価について	<p>全体として進捗はおおむね順調であり、評価もおおむね良好です。          特に指標1の「研修目標達成度（5段階評価）」については、実績値として高い水準を保っており、キャリアステージに応じた資質能力を育成するよう計画に沿って研修を実施することができました。          しかし、指標2の「勤務時間を除いた在校等時間数が、月45時間または年360時間を超えた教職員の割合」については、目標値に対して進捗が順調ではありませんでした。令和4年度に策定した「学校における働き方改革基本方針」に基づき、効率的な働き方を推進しているところですが、引き続き、保護者や地域の方の理解を得ながら具体的な改善策を講じ、教育の質を高める環境の充実のための取組を進めます。</p>	
学識経験者等 意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間を意識した働き方の推進の検討にあっては、検討に参加する教職員を固定することなく、幅広い意見が出るように工夫する必要がある。また、出た意見を迅速に活かすことのできる体制も考えていかなければならない。</li> <li>・教職員の勤務時間について、仕事量が多いことが勤務時間に影響していると感じている。働き方改革だけに焦点を当てて施策を進めるのではなく、県に働きかけながら職員を増やすという取組も考えることが必要である。</li> <li>・事務負担軽減にあっては、地域の人材を活用していくことも必要だと考える。地域も含め、みんなでこどもを育てていくという環境づくりが必要である。</li> <li>・部活動の地域連携は、大学としても貢献できる部分であると考えている。部活動に関心を持つ学生も多いため、積極的な活用を検討していただきたい。</li> <li>・市立川越高等学校の進路指導力向上について、今後は受験の方法も多様化し、生徒一人ひとりに合わせた指導が必要となる。教職員の負担も考慮した対応の工夫が求められる。</li> <li>・現在、特別支援学校のセンター的機能を活用する学校が限られてしまっているとのことだが、こどものことについての不安を、専門的な視点で助言してもらいたいと感じている現場の先生や保護者は多いため、工夫しながらさらに活用についての周知をしていただきたい。</li> </ul>	

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (1)教職員の資質向上

細 施 策	①教職員研修の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の経験段階に応じ、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修や管理職研修などを核とした経験者研修の充実を図ります。</li> <li>・学習指導要領への対応や様々な教育課題に対応するため、教員の専門的スキルを高め、授業改善につながる専門研修の充実を図ります。</li> <li>・教育者としての使命感、責任感を持ち、指導力のある意欲的な教員を育成するための研修を充実させるとともに、勤務規律を守り、倫理観の向上を図るための研修を実施します。</li> </ul>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験者研修 11講座 504名 専門研修 21講座 285名</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、川越授業スタンダードを活用した授業づくりに関する研修の実施（全経験者研修）</li> <li>・特別支援学校教諭2種免許状に必要な単位を取得可能にするため、「免許法認定講習（特別支援教育）」を新たに開設</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県の「校長及び教員等の資質向上に関する指標」に基づき、教職員のキャリアステージに応じた研修内容を計画、実施することにより、おおむね順調に進捗しています。</li> <li>・「ふるさと学習推進研修会」において、児童生徒のふるさと川越への愛着・誇り等を育成する学習の推進を行っています。また、全教職員を対象としたICTに関する研修を実施し、ICT活用指導力の向上を図っています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の喫緊の教育課題の解決に向けた研修を、引き続き実施する必要があります。</li> <li>・教職員が各自のキャリアステージにおいて求められる資質能力を身に付けられるように、研修内容をさらに工夫する必要があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の課題である学力向上、ICT活用、ふるさと学習を最重点として、研修を実施します。</li> <li>・各教職員が必要な学びを主体的に行い、資質向上を図ることができるようにするため、教職員のニーズを把握し、研修計画に反映させ、実施します。</li> </ul>		

細 施 策	②中堅教職員・臨時的任用教員の育成	担当課	関連指標
		学校管理課・教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手・中堅教職員の教育に対する識見を高め、資質・能力の向上を図り、学校運営の推進者となる人材を育成していきます。</li> <li>・臨時的任用教員研修において、教職員の資質向上に関する指標を基とした研修を経験年数に合わせて計画し、臨時的任用教員の授業力を育成します。</li> </ul>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中堅教諭等資質向上研修 全7回 55名</li> <li>・臨時的任用教員研修 8回（①全員参加 3回、②経験年数1～2年目及び希望者のみ参加 5回）194名（内②は64名）</li> <li>・かわごえミドルリーダー研修 全9回 参加者（小・中）7名</li> <li>研修評価達成度平均（5段階評価）4.9</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中堅教職員に対しては、学年組織マネジメントや人事評価制度等、学校の中核を担う人材を育成する研修を実施しました。研修参加者について、教務主任・学年主任等のミドルリーダーを担う者が増加しています。</li> <li>・臨時的任用教員に対しては、全員参加の研修が3回、経験年数1～2年目及び希望者のみ参加の研修が5回あります。研修内容については、県の「校長及び教員としての資質向上に関する指標」に基づき、教員としての使命感を高め、実践的な指導力を養う研修を実施しました。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年主任や教務主任等の若年化を踏まえて、中堅教職員が学校運営の推進者となれるよう研修内容を工夫し、より主体的に研修に参加できるよう改善していく必要があります。</li> <li>・2月の臨時的任用教員研修で実施した「家庭との連携の在り方」「学年・校務分掌等における組織の一員としての在り方」などの研修内容については、すぐに教育実践に生かせるようにするため、研修の実施時期など研修計画を見直していく必要があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中堅教職員は、県の「校長及び教員としての資質向上に関する指標」の深化・中核期に該当することを踏まえて、研修の指導者に実践経験豊富な講師や大学教授等を選定し、より質の高い研修となるようにします。また、「川越市教職員キャリアアップデザインシート」を活用し、管理職との対話を通して、中堅教職員が主体的に自身の資質向上に取り組めるようにしていきます。</li> <li>・臨時的任用教員研修では従来の対面・集合型研修、オンライン研修（同時双方向型）に加えて、オンライン研修（オンデマンド型）を新たに取り入れ、臨時的任用教員が必要なときにいつでも研修動画を見られるようにしていきます。また、研修内容をすぐに実践に生かせるようにするためにすべての研修を10月までに実施します。</li> </ul>		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (1)教職員の資質向上

細 施 策	③教職員研修の効果的な実施	担当課	関連指標
		教育センター	指標1
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の負担軽減及び新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面型・オンライン型の研修方法により、研修内容に適した時期で研修を実施します。</li> </ul>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面・集合型研修 156回（全研修の66%）</li> <li>・オンライン研修（同時双方向型・オンデマンド型） 79回（全研修の33%）</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことで、各研修において感染対策を理由とした、研修形態等の変更措置を取る必要がなくなりました。</li> <li>・対面集合型研修、オンライン研修の全研修数に対する割合は、令和4年度と同程度です。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校における働き方改革基本方針」に基づき、教職員の負担軽減の観点から研修の在り方や内容について検討する必要があります。</li> <li>・オンライン研修（特にオンデマンド型）における、研修効果をより高めるための研修内容、研修方法について検討する必要があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門研修（希望して受講する研修）の数を増やすことで、教職員が自身のキャリアアップに適した研修を選択して受講できるようにします。</li> <li>・教職員の負担軽減のため、情報伝達が主な内容である研修はオンライン研修オンデマンド型にするなど、オンライン研修の割合を増加させます。</li> <li>・経験者研修における各種提出物等を削除することで、教職員の負担軽減を進めます。</li> <li>・オンデマンド型研修参加者の振り返り等を基に、研修内容や研修方法について改善を図り、より充実した研修を実施します。</li> </ul>		

【施策の柱】 (2)教職員の働き方改革

細 施 策	①勤務時間を意識した働き方の推進	担当課	関連指標
		学校管理課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の働き方について見直す機会となるよう、在校時間記録システムにより把握したデータを定期的に学校へ提供し、管理職を含めた教職員の意識改革を図ります。</li> <li>・「ふれあいデー」の設定を推進します。</li> <li>・保護者や地域に対して、学校における働き方改革に関する取組を理解してもらうよう周知します。</li> </ul>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在校時間記録システム更新により、教職員が月の途中でも時間外在校等時間を把握できる形式に変更</li> <li>・在校時間等の客観的なデータを参考にした各学校における取組（日課表の工夫、行事の精選、ノー残業デー等の取組等）</li> <li>・市立学校全校での「ふれあいデー」の設定</li> <li>・学校現場の教職員が参加する負担軽減検討委員会を2回開催</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定例校長会において、在校時間記録システムによる職員の勤務状況把握、状況に応じた教職員への働きかけについて周知しています。その結果、教員の意識も高まり、効率的な働き方を各学校で工夫し、月80時間超の教員は減少傾向にあります。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に長時間勤務は改善傾向にあるが、各学校において在校時間が長い教職員が一定数います。特に、中学校の教職員は、週休日の部活動への従事時間が大きく影響している現状があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長会等において、在校時間記録システムの具体的な活用方法を周知します。</li> <li>・学校における働き方改革に関する取組について、市ホームページや各学校の学校運営協議会等で、保護者や地域の方の理解が得られるよう、周知に努めます。</li> <li>・本市における「学校における働き方改革基本方針」に基づき、教職員の働き方改革を進めます。</li> <li>・部活動においては、外部指導員を活用した指導体制を整えていきます。</li> </ul>		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (2)教職員の働き方改革

細 施 策	②事務負担軽減への取組	担当課	関連指標
		学校管理課・教育指導課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型校務支援システムを活用するなど、国や県、市で求める調査報告について効率化を図れるよう検討を進めます。</li> <li>・学校と教育委員会とが負担軽減についてともに研究する場をつくり、働き方改革を推進します。</li> <li>・学習指導案や教材等を関係者で共有し、教員の教材づくり等の授業準備に掛ける時間を削減し、事務の効率化を図ります。</li> <li>・教育委員会からの調査・照会業務の適正化（縮減）を行い、事務負担の軽減を図ります。</li> <li>・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、専門性を持つ多様な職員と教員が協働し、「チーム学校」としての組織体制強化を図ることで、教員一人ひとりの負担軽減を図ります。</li> <li>・部活動の意義や発達段階を踏まえた指導が行えるよう、外部指導者の活用を含めた地域と連携した活動を推進し、部活動顧問の負担軽減と持続可能な運営体制の構築に努めます。</li> </ul>		
令和5年度の主な実績	<p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型校務支援システムを活用した学校からの提出物の削減を実施</li> <li>・グループウェアを活用した調査等の回答方法の簡素化（回覧レポートやアンケート機能の積極的な活用）</li> <li>・市立中学校において、部活動指導を補助する地域人材登録 19校90名</li> <li>・市立川越高等学校において、部活動外部指導者導入事業による外部指導者 4名</li> </ul> <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市立中学校部活動指導員配置 6校8名</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型校務支援システムやグループウェアを活用して、調査の簡素化、提出物の削減を図ることができました。更なる事務の効率化に向けて、研究を進めていくことができました。</li> </ul> <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性が必要な部活動において、指導準備の助言等を受けることで、部活動顧問の負担軽減が図られています。</li> <li>・市立中学校において、始業前の活動（朝練習）を原則行わないようにし、部活動顧問の負担軽減が図られています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合型校務支援システムやグループウェアについて、一部の職員における活用だけではなく、より多くの職員が活用できるようにする必要があります。また、更なる事務の効率化のための方策を検討する必要があります。</li> </ul> <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の意義を理解し、適切に指導をすることができる人材及び報酬に係る財源の確保が必要です。</li> <li>・多感な時期の中学生を指導するため、外部指導者と学校との連携の在り方の整理が必要です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<p>【学校管理課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループウェアを活用した事務の簡素化に向けた方法を、教育委員会内に広めていきます。</li> <li>・統合型校務支援システムを活用して、不登校及び不登校傾向と思われる児童生徒調査等、学校の事務負担軽減につながる取組を広げていきます。</li> </ul> <p>【教育指導課】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国や県の動向を確認しながら、部活動指導員を含めた外部指導員を活用した指導体制を整えるとともに、予算措置等についても国や県に働きかけていきます。</li> </ul>		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (2)教職員の働き方改革

細 施 策	③悩みを抱える教職員のための支援体制づくり	担当課	関連指標
		学校管理課	指標2
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェックを実施し、高ストレス者が産業医と面談できる体制を整えます。</li> <li>・ストレス状況を把握できるよう、セルフチェックシステムの活用を推進します。</li> <li>・様々な問題、課題に対して、教職員一人で悩み、問題を抱え込むことのないよう、気軽に相談できる支援体制を構築します。</li> </ul>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業医との面談日を1日設定（面談実施者 4名）</li> <li>・ストレスチェック実施対象者1,549名、実施者1,355名（87%）</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業医との面接希望者に対し、面接の場を設定し実施することができました。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェックは本人の希望により実施するものですが、自身のストレス状況を把握できるよう、更に実施率を高める必要があります。学校においては、相談しやすい体制を構築していく必要があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスチェックを実施し、産業医との面接を希望する者に対して、面接の場を設定・充実させていきます。</li> <li>・ストレスチェックの実施率が高まるように、対象職員への働きかけを校長に促します。</li> <li>・校長会等で、相談しやすい相談体制を構築するよう周知します。</li> </ul>		

【施策の柱】 (3)魅力ある市立川越高等学校づくりの推進

細 施 策	①市立川越高等学校の活性化・特色化の推進	担当課	関連指標
		市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ・オレゴン州にあるノース・セーレム高校との国際交流を通じて、グローバル化に対応したコミュニケーション力を身に付け、川越や日本のことをきちんと伝えることのできる国際人を育てます。</li> <li>・本市唯一の市立高校として、異校種や家庭・地域との連携を図りながら、創立100周年に向けて、時代の要請と市民の期待に応える魅力ある学校づくりを進めます。</li> <li>・一人ひとりの希望する進路に向けた確かな学力・技能等を培い、人生や社会の未来を切り拓くことのできる力を育みます。</li> <li>・普通科と商業に関する学科（情報処理科・国際経済科）の3学科併置校としての特色を生かした教育活動の充実を図ります。</li> <li>・これまでの取組を継続し、部活動の活躍を通して学校の魅力を一層高めめます。</li> <li>・多様な学びの機会を創造するため、市内4大学及び女子栄養大学との連携、地元企業や関係機関との連携を推進します。</li> <li>・市立川越高等学校のホームページをより充実させ、教育活動の内容や成果に関して適時に適切な情報を発信します。</li> </ul>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科（普通科・情報処理科・国際経済科）35人の少人数学級編成を維持</li> <li>・普通科の生徒の大学・短大・専門学校等への進学率 91%</li> <li>・情報処理科、国際経済科は全商検定3種目以上1級合格者 50名</li> <li>・部活動の充実を図るための部活動外部指導者を導入 4名計800時間</li> <li>・生徒の個別支援に対するスクールカウンセラーを配置 9回</li> <li>・学校改革を進めるため川越市立川越高等学校教育審議会を 2回開催</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月1日時点の県内中学校3年生対象進路希望状況調査で、市立川越高等学校普通科を希望する倍率は3.79倍（県内1位）となりました。</li> <li>・全商検定や日商検定の取得者が県内の商業系高校の中でトップクラスの実績を収めました。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校改革を進めるために積極的に本市の教育に参画しようとする人材を確保し、教科指導、進路指導、生徒指導など質の高い教育を実践することが課題です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育審議会の意見を参考に、公募により採用した校長の高いリーダーシップのもと、一人ひとりの希望する進路に向けた確かな学力や技能等を培う実学教育を重視し、将来、職業を通じて社会に貢献できる人材の育成を目指し、生徒の社会的自立を促していきます。</li> </ul>		

- 【施策】 5 教育の質を高める環境の充実  
 【施策の柱】 (3)魅力ある市立川越高等学校づくりの推進

細 施 策	②進路指導力向上のための教職員研修の充実	担当課	関連指標
		学校管理課・市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Society5.0時代に対応した教育を実施するため、全ての教員がICTを適切に活用できることを目指します。</li> <li>・ 教員を大学進学予備校や民間教育機関の研修等に参加させ、その成果を校内に普及させることで大学等への進学指導力の向上を目指します。</li> </ul>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市立高等学校教員進学指導力向上研修を活用した、民間教育機関の研修を受講 2名</li> <li>・ 教員を対象にGoogle for Education研修、iPad利活用研修等を実施 4回</li> <li>・ 探究活動等、生徒が主体的に学べるように1学年全生徒がタブレット端末を所持 280台</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合型選抜を活用する生徒が多く、一般選抜で受験する生徒は少ない状況です。(法政大、明治学院大、獨協大、武蔵大、日本大、東洋大、駒澤大、専修大等)</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般選抜に向けての対策と多様化する選抜方法への対応が求められます。</li> <li>・ ICTを活用した情報収集とその活用方法について、教職員のスキルに差があります。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒一人ひとりに合わせた指導として進学補習、面接指導、小論文指導等を実施します。</li> <li>・ 教員がICTを適切に活用できるよう、引き続き研修等を実施します。</li> </ul>		

細 施 策	③中学校・市立川越高等学校連携の推進	担当課	関連指標
		市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市立川越高等学校の取組を市立中学校に広く周知するために、引き続き研究委嘱校を設定し、支援していきます。</li> <li>・ 商業に関する学科との連携など、市立川越高等学校の特色を生かした連携方法について、研究していきます。</li> </ul>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本校にて生徒会の生徒による高校生活紹介（オンライン参加を含む）（川越第一中、高階中、高階西中、大東西中、霞ヶ関中、川越西中、鯨井中）</li> <li>・ 管理職が中学校へ訪問する進路ガイダンス（城南中（中3保護者対象）、霞ヶ関西中（中2生徒対象））</li> <li>・ 管理職が中学校へ訪問する学校説明会（福原中（中3生徒保護者対象））</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な形態により市内中学校10校との校種間連携を行いました。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市立川越高等学校の取組を広く周知するため、希望する多くの中学校との校種間連携を進めることが重要です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度当初に中高連携の計画を周知することにより、中学校側が連携の趣旨を理解した上で申し込むことができるようにし、希望する多くの中学生にとって有益な取組となるように校種間連携を進めます。</li> </ul>		

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実  
 【施策の柱】 (3)魅力ある市立川越高等学校づくりの推進

細 施 策	④市立川越高等学校教育環境の整備・充実	担当課	関連指標
		市立川越高等学校	指標3
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設・設備面からも教育力の維持向上を目指し、より安全で快適な教育環境を整備するため、計画的に改修を進めます。</li> <li>情報活用能力の育成や「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、ICT環境を一層整備していきます。</li> </ul>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>地歴準備室等空調設備改修工事</li> <li>校舎D棟外壁等改修工事設計業務委託</li> <li>エレベーター改修工事(R5～R6債務負担行為)</li> <li>視聴覚室音響設備修繕工事</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「川越市立川越高等学校大規模改修方針」に基づき、また、創立100周年に向けて学校運営に大きな影響がないように計画的に改修工事を実施しています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営に影響がないように改修工事を行うことが課題です。</li> <li>情報処理実習室等で使用している端末の更新及び、ネットワークの環境整備が課題です。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営に支障が生じないよう計画的に改修工事を行います。</li> <li>授業等、学校運営に支障が出ないように、適正な機器更新及びネットワークの環境整備を進めます。</li> </ul>		

【施策の柱】 (4)市立特別支援学校の充実

細 施 策	①市立特別支援学校の整備・充実	担当課	関連指標	
		市立特別支援学校	—	
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市立特別支援学校の教育活動が円滑に進められるようにするために、教育環境の整備・充実に向けた支援体制の充実を図ります。</li> <li>卒業後「ひとりだちする生徒」を目指し、基礎的な知識、理解の定着を図るとともに、個人及びグループで適切に作業に取り組める能力の育成を図ります。</li> <li>生徒一人ひとりに応じた進路指導、援助を計画的、組織的、継続的に推進します。</li> <li>卒業後の職場定着のために、卒業後3年間支援します。</li> <li>ICT機器に触れ、活用する力を育成します。</li> </ul>			
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科別の指導「国語」「数学」の習熟度別授業の実施</li> <li>産業現場等における実習（現場実習）、「職業」の計画的な実施</li> <li>卒業生アフターフォローの実施 55件（企業訪問 47件・電話相談 8件）</li> <li>教育活動に合わせた学習者用コンピュータの活用 ※年間を通して8割程度の活用（主に理科・進路・道徳・外国語など）</li> </ul>			
成果実績	項目名（単位）	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	保護者アンケートで「入学させてよかった」「入学させてよかった」と答えた割合（%）	97.7	95.8	100
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業や実習、卒業生へのアプローチについては例年通りに実施しています。</li> <li>ICTを活用した授業について学校研究として取り組み、教職員の指導スキルを向上させるよう努めています。</li> <li>卒業後社会の一員となるために、必要なスキルについて体験を通して学び、生きる力の育成（SST週間・自立活動）を図っています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別や少人数での指導など、生徒の実態や状況に合わせて指導形態を変えているが教室が少ない状況です。</li> <li>学習者用コンピュータのさらなる活用を深める必要があります。</li> <li>学習者用コンピュータの教職員用の端末については、学年2台であるため、活用が活発になればなるほど、教材研究等に支障が出てきています。</li> </ul>			
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒板や教室の大きさなどに課題があるものの、特別教室を普通教室の代わりに利用していきます。</li> <li>教員間で効果的な端末利用を工夫するとともに、引き続き端末の台数を増やすことも検討します。</li> </ul>			

【施策】 5 教育の質を高める環境の充実

【施策の柱】 (4)市立特別支援学校の充実

細 施 策	②市立特別支援学校のセンター的機能の充実	担当課	関連指標
		教育センター	指標4
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>市立特別支援学校が、保護者に対する相談活動や小・中学校等へのセンター的な役割を担えるよう支援体制の充実を図ります。</li> </ul>		
令和5年度の主な実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーター及び教頭による学校訪問での教育相談等 38件</li> <li>夏季休業中及び年度末の市立特別支援学校職員による中学校訪問 22校(市立中学校全校)</li> <li>特別支援教育コーディネーター及び管理職が、市の研修会で講師として講義・演習を実施</li> </ul>		
現状・課題	<p><b>現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市立小・中・高等学校に対して、特別支援教育の理解、校内環境の整備と学習・生活上の配慮、教材・教具等の作成活用等についてアドバイスをを行っています。</li> </ul> <p><b>課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター的機能を活用している学校が限られています。</li> </ul>		
課題解決のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員向け研修会や校長会等を通じて、市立小・中・高等学校へセンター機能の積極的な活用を促していきます。</li> <li>市立特別支援学校の特別支援教育コーディネーターが、センター的機能の充実に専念できるようにします。</li> </ul>		